



会社と自分の良い距離感

代表取締役社長 安永 晓俊

新年あけましておめでとうございます。

皆さまには、ご家族とともに清々しい新年を迎えてくださいとお慶び申し上げます。

新入社員の皆さんもそろそろ仕事に慣れてきたころかと思います。今回は、会社と皆さん自身の距離感について話します。

会社と自分の距離感

AI検索によると、「距離感とは物理的・心理的な距離の感覚全般を指します。対人関係においては、相手とお互いが心地よく、無理なくいられる関係性を保つためのバランスを意味します。適切な距離感を保つには、相手の状況や気持ちを察し、自分自身とのバランスも意識することが大切です」とあります。

社内の人間関係において、ほどよい距離感は大切です。

同様に、会社と自分との距離感も大切です。

ものづくりの企業として、安永では工場で小集団活動が活発に行われています。最近は、事務所でも活動を始めています。小集団活動の中で、ムダをなくしたり工夫して使用量を減らしたりといった取り組みが数多く発表されています。成果については出来るだけ金額に換算することで、取り組んだ人が達成感を得られるよう工夫もされています。小集団活動の中で、会社のお金ではあるのですが、もし自分のお金だと想像してみたら、自分事として何か発見があるかもしれません。

ものづくり企業として、ムダなく安価に必要なだけ製造する取り組みを原価低減といいます。原価低減では1円を削減することに拘って取り組んでいて、それがものづくりの競争力につながっています。普段そんな取り組みをしていると、世の中の物の原価していくらくらいするのだろう?という素朴な疑問も出てきますよね。文末に参考書籍を挙げますので、興味のある方は読んでみてください。

会社と自分の距離 100

では、会社のお金は他人事だと完全に割り切って考えるとどうなるか?先ほど述べた小集団活動などで身が入らないかもしれません。周りからそれはムダ使いじゃないかと指摘を受けるかもしれません。日本は資源の少ない国で、ムダ使いしないよう道徳教育を受けている方も多いので、そこまで極端に割り切る方は少ないと思います。

会社と自分の距離 0

では、会社のお金を自分のお金だと自分事として考えるとどうなるか?小集団活動にも身が入り、ムダ使いしないアイデアが溢れてくるかもしれません。しかしながら距離0だと不都合も出てきます。自分のお金だと強く思いすぎると、会社のお金だということを忘れてします。自分のお金で買う感覚だと、悩んだ時に自分だけで考えてしまいがちです。

良い距離 20~50~80を保つには

会社と自分が遠すぎず近すぎず、20や50や80のほどよい距離を保つ為に、どういう風に考えたらよいでしょうか?

私たちは会社という組織に所属して働いています。日々働いている中で、自分が組織の一員であることをほどよく自覚しておくには、会社の役割を理解して自分の役割と区別しておくことが大切です。

会社というのは法人格(法律上の人格)を持っていますので、安永グループという会社(法人)が製品を開発して製造して販売しています。一方、私たち社員(個人)は日常業務の中で開発したり製造したり販売したりしています。同じことをしても、主語が違うことを意識しないと、それぞれの役割を混同してしまいかがちです。

皆さんが個人で買い物するときに、自分で判断して決めることが多いと思います。高額な買い物だと家族に相

談しますよね。一方、会社で買い物するときは、自分だけでは決められません。社内の規定により、金額に応じて決裁者が決められています。皆さんは稟議を申請しますし、申請の前には周りの人に相談したりもします。つまり報連相(報告・連絡・相談)が必要になります。

皆さんが仕事で買い物するときには、会社という法人格をもったものが意思決定することになります。私たちの役割としては、意思決定をするにあたって周りの然るべき人に報連相したり、しっかりと議論する場を設けたりする行動が求められます。結果として、会社が良い買い物ができた、良いものづくりが出来ることになります。この「会社」と「個人」の主語の違いを常に意識しておくことが良い距離感を保つためには必須です。

法人格とは

AI検索によると、法人格の主な特徴は次の通りです。

- ✓ 権利・義務の主体となる: 法人は、個人と同様に権利を持ったり、義務を負ったりします。
- ✓ 財産を名義で所有する: 団体名義で不動産を所有したり、銀行口座を開設したりできます。
- ✓ 契約を締結する: 法人として契約を締結し、法的行為を行えます。
- ✓ 個人と責任が分離される: 法人の債務や事故の責任が、原則として構成員個人には及ばず、個人の財産は保護されます。
- ✓ 社会的な信用が高まる: 法人格を持つことで、金融機関からの融資や大企業との取引が有利になるなど、社会的信用が向上します。
- ✓ 繙続性を持つ: 代表者やメンバーが交代しても、組織自体は永続的な存在として存続します。

法人と個人の役割の違い

会社というのは、法人という大きな人格を持っています。普段はあまり意識することはありませんが、法人の人格と個人の人格は明確に線引きされます。皆さんも仕事で実感する場面があるでしょう。

例えば、皆さんが業務で思い切ったチャレンジをして、残念ながら失敗に終わったとしても、当然ながら会社が全責任を負います。もし自分の不注意でミスをしてしまって、会社に損害をもたらした場合でも、個人への補償は求められません。これは法人と個人で責任が分離されているからです。

しかしながら、皆さんの心構えとして、会社が責任を取ってくれるから自分は何をしても許されると割り切ってしまうのは良くありません。もし自分が大きなミスをした場合、損害の補償は求められませんが、猛省は促されますし、場合によっては始末書を書くこともあります。

でしょう。社内で迷惑を掛けることもあるでしょう。

この法人と個人の役割の違いを理解しておけば、良い距離感で仕事ができます。熱き心で思い切ってチャレンジしてみる、上手くいけば皆さんの成果となりますし、もし上手くいかなくても、会社が責任を取るので安心して取り組んでほしいのです。

利他の心を持つことで良い距離感を

皆さんは上司から、「何事も自分事として仕事しろ」と言わされた経験はありませんか?これは蓄積のある言葉です。自分事で仕事するから身が入りますし、良いアイデアが出てきます。ただし、自分事でどんどん仕事を抱えてしまい周りにも相談できなくなると本末転倒です。

自分を主語として、何事にも自分の意見を持つ、自分の仕事に責任を持つ。会社を主語として、何が一番会社のためになるのかを考える、組織の一員であることを自覚しその役割に徹する。自分が主語であり、且つ会社が主語でもあることを意識して、会社のために頑張ろうと考えられると最高です。

会社のためにという利他の心を持つことで良い距離感が得られます。会社を中心に考えられる人は、周りの協力を得られやすくなりますし、自分中心の考え方から解放され、広い視野で物事を判断できるようになります。会社を主語として考えられる人は、自分自身を上から俯瞰して客観的に捉えることができますし、高い視座で大きな目的を意識しながら仕事ができるようになります。つまり仕事での生産性が大きく伸びるのです。

チームの一員として良い距離感を

最近、並外れた成績を残したアスリートから「自分のために頑張った」との言葉よりも「チームのために」「仲間のために」「恩師のために」「競技の普及のために頑張った」との言葉を数多く耳にします。自分ではない誰かのため、その方がより力を発揮できるのです。

安永では様々な場面で良いチームワークが発揮されてきました。仕事で各部署が連携して取り組んでいるのは勿論のこと、先日のファミリーイベントでは事業体のチーム対抗で大いに盛り上がりました。これからも良いチームワークを発揮して、よりよい会社を目指しましょう!チームの一員として、皆さんも会社と良い距離感を保ちながら、新しいことにチャレンジしてみてください。会社はそんなチームメンバーを応援します!

参考書籍

- ・お客様に言えない「原価」の秘密 情報取材班著
- ・知らないとゾンする! 價格と儲けのカラクリ 神樹兵輔著